

議事録（概要版）

会議名	2025年度（令和7年度）第1回福山市男女共同参画審議会
議題	報告事項：(1)2024年度（令和6年度）福山市男女共同参画基本計画（第5次）の年次報告について (2)審議会等への女性の参画状況について (3)2025年度（令和7年度）福山市男女共同参画推進計画について
日時 場所	2025年（令和7年）8月22日（金）10:00～11:45 福山市役所 本庁舎 小会議室
出席者	林委員、皿谷委員、正保委員、山崎委員、池田委員、佐藤委員、落合委員、谷元委員、筒井委員、羽原委員、平木委員
欠席者	市瀬委員、後藤委員、加藤委員、平賀委員
事務局	多様性・スポーツ推進担当部長、多様性社会推進課長、多様性社会推進課男女共同参画担当次長 ほか
その他	若者・くらしの悩み相談課長、産業振興課雇用労働担当課長
傍聴	なし

1 報告事項

- (1) 2024年度（令和6年度）福山市男女共同参画基本計画（第5次）の年次報告について
- (2) 審議会等への女性の参画状況について
- (3) 2025年度（令和7年度）福山市男女共同参画推進計画について
→ 事務局が基本目標ごとに説明し、続いて質疑応答を行った。

質疑	応答
<p>基本目標Ⅰ</p> <p>① 教育参考資料のデジタルブックは誰でも見られる形になっているのか。</p> <p>② 情報誌「イコール」において、記事の大小の選定に違和感を感じる。</p>	<p>① どなたでも使っていただけるようにホームページに掲載している。</p> <p>② ご意見は色々あると思う。重要度などを勘案しながら、記事を検討している。</p>
<p>基本目標Ⅱ</p> <p>③ 審議会等への女性委員の参画について、具体的にどのような働きかけをしているのか。</p> <p>④ 審議会委員の推薦方法について、適任を考慮せず女性の積極的選任を求めることは逆差別になるのではないかと。男女複数の候補を団体から推薦し、市で選ぶようにした方がいい。</p>	<p>③ 改選時期に所管課を通して推薦団体へ女性委員の積極的選任について依頼している。また、子育て世代の方が安心して審議会等へ参画できるよう託児制度を設けている。</p> <p>④ 審議会委員への女性参画が少ない中、ポジティブアクションの側面がある。どういう形がいいかは、今後も検討していきたい。</p>
<p>基本目標Ⅲ</p> <p>⑤ 男性の育児休暇取得率について、現状値は39.5%であるが、国の目標である50%を目指して更なる取組を進めていただきたい。</p>	<p>⑤ 承知した。</p>

<p>⑥ 事業所へのアンケートはどのように実施しているのか。</p>	<p>⑥ 第5次計画に係る事業所アンケートは、2021年度に実施している。調査対象は、広島労働局と福山商工会議所から事業所データをご提供いただき、規模と業種に偏りが出ないように分類した上で、福山市内に本社がある事業所300事業所を無作為に抽出している。 なお、男性の育児休暇取得率については、福山地方雇用対策協議会の会員企業に対してアンケートを実施した数値である。</p>
<p>基本目標Ⅳ</p> <p>⑦ 「イコールふくやま」の相談件数754件は、若者・くらしの悩み相談課で受けた相談の件数か。</p> <p>⑧ 全国的に、男性のDV被害者も増えているが福山市の状況はどうか。</p> <p>⑨ 男女共同参画センターで相談を受けていた時と比較し、相談件数はどうか。</p> <p>⑩ 幅広い形で離婚前後の方への支援など、相談窓口に至る前の対応や問題の掘り起こしなどの取組は考えていないのか。</p> <p>⑪ DV被害者の一時保護について、逃げるだけの待遇ではなく、その地域で生活ができるような支援は考えていないのか。</p>	<p>⑦ その通りである。754件は延べ件数であり、その内訳は、電話相談が269件、来所相談が485件である。なお、相談実人数は369人である。</p> <p>⑧ 相談実人数369人のうち、男性の相談は、34人である。</p> <p>⑨ 男女共同参画センターで相談を受けていた、2021年度、2022年度は、相談実人数は415件、398件。本庁舎に窓口を移設した以降の相談実人数は、2023年度は427件、2024年度は369件である。</p> <p>⑩ 女性相談は若者・くらしの悩み相談課が担当しており、子育て関係や離婚の関係（ひとり親への支援）はネウボラ推進課の「ネウボラ相談窓口」で対応している。</p> <p>⑪ 市内での暮らしを希望する方には、市内のアパート探しや市営住宅への入居の支援をしている。本人が希望する場合は、関係機関と連携し、市外の施設へ避難する支援をしている。</p>
<p>主な指標と目標値の達成状況</p> <p>⑫ No.1、2については当初数値として、2021年度の数字が載っているが、この意識調査は5年に1回実施するものか。</p> <p>⑬ 女性人材リストの登録者数が減少している理由は。</p> <p>⑭ 人材シェアリングの登録企業数が減少している理由は。</p> <p>⑮ 各アンケート結果の出展元や調査対象をもう少し具体的に記載していただきたい。</p>	<p>⑫ その通りである。</p> <p>⑬ 2024年度は、更新の年であったことから、継続をしなかった方が多く、大幅に減ったもの。なお、これまで5年ごとに更新をしていたが、2024年度に事業実施要領を改正し、今後は、毎年更新することとしている。</p> <p>⑭ 企業を回り、ご意見を伺う「福の耳プロジェクト」について、ヒアリング項目の見直しを行った関係で、ヒアリングを一時期中断していたことが影響し、減少している。</p> <p>⑮ 次期計画策定に向け、検討する。</p>